

夢は世界文化遺産

「一乗谷朝倉氏遺跡」

ゲスト

一乗谷朝倉氏遺跡保存協会 会長

岸田 清さん



「一乗谷朝倉氏遺跡」は、福井市城戸ノ内町にある中世唯一最大の遺跡で、国の特別史跡、特別名勝、重要文化財の三重指定を受けています。この三重指定は国内に五例しかありません。遺跡地区内に住む城戸ノ内町の住民全戸で「社団法人朝倉氏遺跡保存協会」を発足し、景観保全、イベントを開催したりしています。

朝倉氏遺跡保存協会の岸田清会長に地域活性や景観保全活動などについてお話を伺いました。

一乗谷朝倉氏遺跡は、白い犬のお父さんが登場する携帯電話のCMロケ地で二躍脚光を浴び、すっかり有名になりました。その影響もあり、観光客も激増したとお聞きしています。が、まず簡単に歴史について教えてください。

敗、一乗谷の谷全体が三日間燃え続け、義景公は自害し朝倉家の繁栄は幕を閉じました。その後、四百数十年間、ずっと埋もれていました。1967年から120年計画で朝倉氏遺跡の発掘整備が進められています。今年がまだ四十六年目です。

ここ、一乗谷の地は1471年、初代朝倉孝景公が黒丸城より居を移し、5代 103年に渡り、戦国大名朝倉氏の拠点として栄えたところです。当時、人口が一番多かったのは都であった京都、二番目が商業都市大阪の堺、三番目がここ一乗谷でした。田も畑もなく家並みだけが続く大密集地域でした。その頃、江戸は田んぼの真ん中です。1573年五代当主の朝倉義景公が織田信長との戦いで大



時代行列

朝倉氏遺跡は 日本で五本の指に入る 歴史的遺産の所

福井の人はあまり知らないと思いますが朝倉氏遺跡は日本でもトップクラスの歴史ある遺跡であり、観光地として、もともと注目を浴びるべき所だと思っています。

日本の有名な観光地の中で「特別史跡」「特別名勝」「重要文化財」この三重の指定を受けているのはさわめて少ない。京都の「金閣寺、銀閣寺、醍醐寺」広島島の「厳島」、そして福井の「一乗谷朝倉氏遺跡」だけなんです。日本でわずか五例の、この素晴らしい事実を県民はもとより多くの人に知ってほしいですね。

— 岸田さんが会長をされている一乗谷朝倉氏遺跡保存協会はどのような活動をされているのでしょうか。ご苦労も多いと思いますが。

保存協会の仕事は、遺跡全体の清掃・維持管理、更には復原町並

の指定管理者として任されていて、スタッフ三十五人余りで担っています。草刈も以前は草が伸びてから刈ったり除草剤をまいたりしていたのですが、それでは景観に良くないと草が伸びる前に先手先手で作業を進め一年中素晴らしい景観を提供しています。除草剤を撒いて黄色くなっている遺跡の風景は朝倉氏遺跡には似合わないの考えからです。みんなで努力してこそ地域は守られると思います。

目に見えぬ 「朝倉の力」が 私を動かしている

なぜ、この活動を続けられるのかと申しますと、「朝倉氏の力」に私自身が動かされていると感じてしょうがないのです。一乗谷の現在の発展も全て「朝倉氏の力」のお陰だと思っています。何も小さい山村が全国の注目を浴び、天皇皇后両陛下をお迎えしての全国植樹祭開催、まさに目に見えない力としか言いようがないと感じています。



朝倉町並み

昨年、福井市から「景観形成」の指定を受けることが出来ました。実は、二年前に景観指定の話があり、一乗谷の七つの地区の方々と数回に亘り話し合ってきました。これから先は、今の景観を守る必要だと思っています。たとえばここ一乗谷に観光客を見込み、大手企業が高い五階建ホテルでも建てられたら景観が台無しです。田んぼが買われ、コンクリートばかりになってしまったら大変です。地区の人たちは、景観形成の指定を受ける負の面として、縛りがかかる、自分の家を自由に建て替え出来ないといったことを主張しますが、でも、この景観を守っていくことが、私たちの次の世代、その次の

世代へと、今の一乗谷の景観を守る事も子や孫に残す大きな財産の一つであると思っています。粘り強く話し合ってきた結果、地区の大部分の了承をもらって指定を受けることができました。

— 岸田さんは歴史が小さい頃から好きだったのですか。

ずっと一乗谷で育ち、ほとんどが畑、田圃ばかりでしたが、次々と遺跡が発掘され新しい事実が明らかにされる中で、自分の中に自然に朝倉氏遺跡の保存に関わらなければという意識が作られてきた気がしています。

若いころから保存会の役員に選ばれ、副会長二十四年の間にも歴史の知識を深めてきました。会長職も三期五年目に入りました。時間と体を随分使って一面では犠牲的な面もあると思いますが、自分がやりたいこと、願っていることが着実に実現されてきました。そのことが何より嬉しいですね。やはり朝倉氏の目に見えない力だと思います。

ソフトバンクのCMは 同級生との再会から 生まれた

—そもそもソフトバンクのCM
が一乗谷にきたきつかけは何
だったのですか。

きつかけは四十六年ぶりの中学
の同級生との再会から始まりまし
た。人と人との出会いって大切で
すね。同級生の彼は、現職のとき、
一流企業で各支店長や本体のC
M作りの仕事をしており、定年退
職後、福井市に戻り、現職時代の
人脈を活かしてほしいと福井市の
観光アドバイザーとして採用され
たのです。

彼が、ソフトバンクのCMを作る
佐々木さんやCM関係で有名な超
一流の方々を連れて来ました。遺
跡一帯を案内し、「特別史跡」「特
別名勝」「重要文化財」の三重の
指定を受けているのは、金閣寺、銀
閣寺、醍醐寺、厳島、そしてここ朝
倉氏遺跡の五カ所しかないと話す
と、なぜ他は知名度があるのに朝
倉の地は知名度がないのかという
ことになりました。佐々木さんは、



朝倉ソフトバンクCM

た。三十万人ぐらいと読んでいたの
ですが、一気に五十万人以上が
訪れるようになりました。余談で
すが、ロケの実家は我が岸田家
使いました。ウルトラマンも我が家
でシャワーを浴びました。素顔は
誰にも見せないことになっていまし
たが、息子の嫁はチラッと見たよう
です(笑)

—観光立県をめざす福井県もこ
こ一乗谷を注目していること
と思います。岸田さんからみ
て課題、問題点はどんなこと
でしょうか。

まずはそこに住む人たちがしっ
かり歴史を知り愛着を持つことが
大事です。知らない人には知らせ
ていく。子どもに繋げていくことが
最も重要です。

子供たちも大活躍 周辺地域とも連携

次代の子供たちに一乗谷朝倉
氏遺跡の重要性をしっかりと受け
継いでほしいとの思いから、地元一



こどもボランティア



こども学習

乗小学校の五・六年生の総合学習
の中に朝倉氏遺跡の勉強も取り
入れてもらいました。

住民との会合では高齢者ばかり
になりがちなので、学校での授業
参観で朝倉氏遺跡の発表会をし
て児童の父兄に参加してもらった
り、観光客に対し子供たちが積極
的にボランティアガイド、語り部な

ども担っています。観光客に驚かされたり誉めてもらったりし、さらに熱心に取り組んでいくことにつながっています。

また、一乗谷一帯のここが素晴らしいと思う八カ所を選ぶ「一乗谷八景」の取り組みでは、大人は表面の美しい景色を選んだのですが、子供たちは体験し勉強して感動した場所を選ぶなど、子供の視点での歴史と観光発掘も印象的でした。

越前和紙の産地とタイアップして、和紙で作った時代衣装を復原町並の中で披露したり、越前市味真野地区の鎧づくりや万葉まつりの人たちとの連携、さらには朝倉氏遺跡と周辺五市一町と結んでの「やまぎわ天下一街道」での盛り上げにも取り組んでいます。

行政関係者は、もつと現地へ

県内各地へ出向くと多くの方々が「行政は何もしてくれない」と文句を言っていますが、先ずは自分たちが考えて行動を起こし、実

際に動けば行政も支援の力を大きくしてくれると感じています。

一つ要望になります。行政の側も観光客誘致をスローガンで叫ぶだけでなく、実際に県や市の職員みんなが、一乗谷朝倉氏遺跡を訪れ、自分たちで歴史と事実を知ったうえで自信を持って「歴史の里」一乗谷の魅力を発信してもらいたい。そのための勉強会などは非とも実施してほしいと思う。そのことで互いの信頼も生まれ、相乗効果が図れると期待しています。

「京都にはない、金沢にもない……あまりにもない。だから面白い」「一乗谷朝倉氏遺跡のキャッチコピーのポスターですが、なかなかいいですね！」

これはソフトバンクのCMを作られる佐々木さんのアイデアです。

い。い。い。い。
な。な。な。な。
な。な。な。な。
京 都 金 沢
な に も な に も
あまりに だから面白い。

一乗谷・福井市と書いたら福井県とわかってしまいます。それを逆に出さな

谷つてどこにあるんだ」「本当に一乗谷つて実際にあるの？」ということになりますよね。逆探知させよう、その方が今の若い人には受けるよ、ということでした。

私の夢は 世界文化遺産 「一乗谷朝倉氏遺跡」

最後に岸田さんの夢をお聞かせ下さい。

日本に五例しかない三重指定地、他の四ヶ所は現在世界遺産に認定されています。今も多くの所が名乗りを上げ活動しています。その所以上に「一乗谷朝倉氏遺跡」の価値は高く、世界遺産指定に値すると思っています。

私や保存協会会員の大きな夢は、「一乗谷朝倉氏遺跡」が「世界文化遺産」の指定を受けることです。だから、県や市も含めて、この運動を力強く推進してほしいと願っています。

若い後継者づくりも考えながら、私の生きている限りさらに頑

張って「世界文化遺産」指定の夢と併せNHK大河ドラマ誘致運動にも多くの皆様方の賛同をいただき必ずや実現したいですね。ご協力宜しくお願いいたします。

「どうもありがとうございます。」



戦国まつり

